

年の瀬も迫り、今年もあとわずかとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
冷え込む日もありますので、十分健康に留意して、楽しい年末・年始をお過ごし下さい。



ディプロマ・ポリシー(DP)・カリキュラム・ポリシー(CP)の改定について

医学教育分野別評価対応WG委員・法医学講座 藤宮龍也
米国 ECFMG が 2023 年以降、医学教育の国際的認証を受けている医学部の卒業生以外には米国での医師資格が得られないと宣言したことが引き金になり、医学教育の「黒船来航時代の幕開け」となりました(2023年問題)。その認証基準として、WFMEに準拠した日本版医学教育分野別評価基準が公表され、一元的に医学教育の認証評価が行われています。内容としては、アウトカム基盤型教育を中心とした教育基準が求められます。

一方、呼応するように、2016年3月に学校教育法施行規則の一部が改正され、全ての大学が卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー(DP))、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー(CP))、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー(AP))を策定して公表するものとされ、その一体性・明確性を求めるガイドラインが作成されました。

山口大学では、既に上記の3つのポリシーは策定されていましたが、ガイドラインに沿っての改定が検討されています。国際認証において求められるアウトカム基盤型教育でも一貫性のある体系的で明確なDPが求められ、対応するコンピテンシーの設定やカリキュラムの見直しが必要とされています。また、ルーブリック評価・ポートフォリオや担任制などの新しい形の学生の主体的な学修の支援が求められています。コア・カリキュラムも到達目標・アウトカムを意識した形で2017年に改定が予定されており、再び、医学教育の大変革期が訪れようとしています。

4年生への共用試験(OSCE, CBT)の実施報告

11月19日(土)に共用試験OSCEが行われました。実習棟A 2階テュートリアル室にて身体診察の試験が行われ、頭頸部診察、胸部診察・バイタルサイン測定、腹部診察、神経診察、基本的臨床手技に関する課題に取り組みました。医療面接は講義棟B 2階で行われました。今年から身体診察が5ステーション・3列、医療面接が5列となりました。また、身体診察、医療面接とも課題を1課題とし、同一課題を出題することで公平性を担保しました。午前中に課題が終了した学生と午後試験を受ける学生の交わりが決して起こらない様に配慮し、注意を払いましたが、問題なく、無事に終了することができました。

また、12月7日(水)に共用試験CBTが例年通り、工学部の情報処理演習室で行われました。外部モニター委員の先生方から非常に円滑に進行しており、何も問題ありませんとの評価を頂きました。担当者の皆様のご尽力のおかげで、スムーズに進行できました。どうも有難うございました。来年の共用試験(OSCE, CBT)もスムーズに進行できる様、取り組んでいきたいと思っております。

医学教育豆知識

【行動主義(Skinnerら)から構成主義(Rogoffら)へ】

行動主義は、教員中心の教育で、変化した行動のみで学習を評価します。詳細教育目標を立てて、一方的に履修させることに重点がおかれ、教員の役割は、望むべき行動変容を教え込むことにあります。一方、**構成主義**は、学習者中心の教育で、達成目標を重視します。学習プロセスは、学習者により異なる方略嗜好を選択して達成することに重点がおかれ、教員の役割は、達成のためのファシリテーターとなります。



第43回 医学教育者のためのワークショップへの参加報告

医学教育学講座 助教 久永拓郎

12月4日から8日にかけて湘南国際村センターで開催された、第43回 医学教育者のためのワークショップ(WS)に参加してきました。このWSは全国の大学病院や研修病院などからカリキュラム作成や教育の中心となっている人を優先して定員40名という狭き門で毎年開催されています。1974年に日野原先生ら熱意を持った医学教育者が富士山のふもとに集まって行ったのが最初とのことで、この分野で最も由緒ある会といえるでしょう。当時と場所は変わりましたが、天気にも恵まれて相模湾越しにきれいな富士山が見え、まさに通称「富士研」でした。内容について、4泊5日の間はずっと1ヶ所のセミナー施設に留まり、朝は8時半から夜は9時まで全て医学教育に関する講義、7~8人のグループワーク、討論に充てられました。今回のテーマは「アウトカム基盤型カリキュラムの考え方とその構築」であり、社会から医師として求められる能力を考え、その修得に向けた教育到達目標を設定し、カリキュラムの構築、評価法の策定などを小グループに分かれて進めていきました。ちなみに私のグループは「社会と医療」ということで、地域医療、保健医療、国際貢献まで広がるテーマを担当し、スライドや大判用紙の作成など和気藹藹と作業を進めていきました。昨今のアウトカム基盤型への流れは、今後の医学部の国際認証という外圧によるものと思われがちですが、医学に関わらず現在の教育全般において起きてきているようです。このような時代背景の中、自分が昔受けた教養とは違う(+αのある)教育を提供していく必要が生じており、カリキュラム作成の難しさ、現実としての教育現場を想像した際のエフォートの多さを感じずにはいられませんでした。実際、WSの閉会にあたり、今後具体的に何をすべきか、短期的には誰も回答を持っていませんでしたが、WSで得た内容を各施設に持ち帰り、先生方と話をしていくという点では皆一致した発言をされていました。教育もある意味チームワークなのかもしれません。本学でも今後の国際認証や新コアカリキュラムに対応したカリキュラムの改変が進められますが、先生方のご指導・ご協力がとても大切だとつくづく感じつつ湘南(の山奥)を後にしました。参加者の多くが私よりベテランであり、教授・部長クラスのほか、最前線の臨床医、海外協力を行っている医師、東日本大震災での医療を経験した医師など様々な経歴をお持ちでした。プログラム外でも每晚9時以降に情報交換会が催され、食堂での3度の食事の中で臨床・研究・教育など日々の思いを語り合い、交流を深めることができました。学生の時以来ともいえる「合宿」ではありましたが、貴重な体験と知見を得ることができました。本WSに限らず、医学教育や指導に関する企画はございますので、お時間が許せば是非足を運んでみられてはいかがでしょうか。



今年を振り返って

医学教育学講座 助教 西本 新

早いもので、もう今年も残すところあと数日となりました。皆様にとって今年はどうのような1年でしたでしょうか？医学教育センターニュースもVol. 6となり、私自身、センターニュースを編集しながら、医学教育に関して、多くの事柄が学修でき、知識が整理できた様に思います。来年も引き続き、医学教育センターニュースを発行し、皆様に分かりやすくをモットーに、医学教育分野のニュースを提供して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。1年間、ご覧頂き、有難うございました。

それでは、皆様良い新年をお迎え下さい。



ご意見・ご要望等につきましては、医学教育センターへ
お願いします。 TEL: 0836-85-3747

E-mail: mec01@yamaguchi-u.ac.jp